

令和元年度 政務活動報告書

会派又は議員名 鈴木 岩夫

政務活動期間	令和元年10月11日～10月12日（2日間）
政務活動先	厚岸町、幕別町
政務活動参加者	鈴木 岩夫（1名）
政務活動項目	<ul style="list-style-type: none">○給食費無償化の背景、財源、成果、課題について○教材費助成拡大の背景、財源、成果、課題について○子どもの読書活動の推進及び環境の整備について
政務活動項目に係る（目的・結果等の概要・所見）	別紙のとおり

1 研修視察地 厚岸町（釧路管内）

(1) 日時 2019年10月11日（金）15：00～16：30

(2) 場所 厚岸町教育委員会（厚岸町役場庁舎内）

(3) 研修項目

①給食費無償化の背景、財源、成果・課題について

②教材費助成拡大の背景、財源、成果・課題について

2 研修内容

はじめに

厚岸町教育委員会に着くと、管理課長の真里谷隆さんが出迎えてくれました。さっそく教育長室に案内いただき、私から研修の動機などを説明して始まりました。以下研修内容について報告いたします。

① 食費無償化の背景、財源、成果・課題について

どこの自治体もそうだが人口減少、その中で一番大きいのは、施策として子育て支援を強固にしていかなければならない時代に来ている。子どもを育てるという事は、大変お金がかかる。財政的な負担が大きいという社会状況を考えると、やはり子育て支援について最も大事なものは財政負担ではないかと理解している。

学校給食費について無償化といっても法的な問題はないという事が新たに解釈としてできた。

予算については、3千万円。大変な金額であるが、学校の給食費無償化というものは、政策的なものとして行う。

成果は、この4月からスタートしたものでこれからである。給食費を助成することは意義深く、大きな価値があることから、時間の経過とともに、学校給食が無料化の趣旨が形骸化されないよう、保護者に対し、給食だよりや教育委員会ホームページを活用し、社会全体で支援していることを呼びかけ、継続的に事業の趣旨を理解してもらうよう努め、アンケート調査を実施し事業の検証を図るとしています。

課題としては、食育について。食育は、家庭だけの問題ではなく、学校面における食育、学校給食が、無償化することによって新たな見地から教育を目指して考えなければならない。また、児童生徒には、給食を「生きた教材」として活用し、食の大切さやありがたみを食育の一環として、継続的な学習指導を推進するとしています。

② 材費助成拡大の背景、財源、成果・課題について

「厚岸町立学校保護者負担軽減費取扱要綱」を平成30年3月28日付で教育委員会訓令第6号として発しました。

第1条で、趣旨について、学校における教育活動に要する費用の一部を助成することにより、経済的負担の軽減を図り、学校における教材購入経費の統一的な基準を設定し、適正な予算執行に関する取扱いについて、必要な事項を定めるものとするとしています。

第2条では、定義について「保護者負担軽減費」とは、厚岸町が授業等において児童生徒が一律に使用する教材、事務用品等の教材購入費用の一部を助成する経費をいう、とあります。

第3条として、保護者負担軽減費の対象費目及び対象外費目は、別表のとおりとして示しています。対象費目として、粘土、折り紙、図画用紙、半紙（清書用）、版画版、テストに要する物品、書き方練習帳、夏冬休み帳、連絡帳、体育帽、はちまき、名札、補助教材（各種テスト用紙、ワーク、ドリルブック等）その他授業等において児童生徒が一律に使用する教材及び事務用品

1 研修視察地 幕別町（十勝管内）

(1) 日時 2019年10月12日（土）10：00～11：30

(2) 場所 幕別町図書館

(3) 研修項目

- ① 家庭・地域・学校等を通じた社会全体での子どもの読書活動の推進について
 - ・家庭における読書活動の推進について
 - ・地域における読書活動の推進について
 - ・学校等における読書活動の推進について
- ② 子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備について
- ③ 幕別町における取組について
- ④ 学校図書館における取組について
- ⑤ 評価・検証について

2 研修内容

はじめに

幕別町図書館に着くと、武田健吾館長が出迎えてくれました。さっそく応接室に案内いただき、武田館長の他司書の民安園美さんが対応してくださいました。私から研修の動機などを説明して始めました。以下研修内容について報告いたします。

全体通しての感想をはじめに述べます。

地味だけれど、全道・全国の先進図書館に負けない素晴らしい取り組みを行っているという事です。司書をはじめ職員のアイデアを活かし、様々な取り組みを行っているという事です。驚いたのは、図書の管理。一般的には、図書コード番号で管理しています。書棚もそのように分類されて置かれています。しかし、ここの図書館は違います。書店のように利用者の興味関心に合わせて書棚を構成し、書棚ごと一括で管理しています。北海道では、ここだけです。

評価・検証については、10名の図書館アドバイザーを置いて行っています。

地域に書店がなくなって、アマゾンで購入と言っても高齢者にはそうはいきません。そのような地域の状況のなか、住民の要望に応えるべく様々な取り組みを行っています。その取り組みを支えるべく、職員の数もそろっています。人口5万近くいる音更町より、半分の人口にすぎない幕別町図書館ですが、音更町より多いという事です。なんと19名。

町内小学校、幼稚園、保育所、コミセンなどを巡回する移動図書館の運行、学級文庫としての貸し出し、中学校図書室へのシステムなどの支援。ウェブサイトを活用した情報発信が素晴らしい。

図書資料予算は、800万円を超えています。レファレンスサービスだが、町の歴史等に関する問い合わせが多いと言います。町職員からの問い合わせも増えているという事だ。